熊本大学教育実践研究　第36号，245－252，2019

特別支援学校高等部におけるTPOに応じた衣服選択の実践

辻　清美*・古里王明*・田口朱美*・雙田珠己**

Practice selection of clothes according to TPO at the high school of special support school

Kiyomi TSUJI, Kimiaki KOZATO, Akemi TAGUCHI and Tamami SODA

1．はじめに

(1)　教科選定の理由

熊本大学教育学部附属特別支援学校高等部では，卒業して３年，６年，10年後に「働く」「家庭」「余暇」の３つの生活について面談を実施し，生徒のフォローアップを行うための「フォローアップミーティング」を行っている．この際，アンケートを実施したところ，働く生活に関しては伸びがみられる一方，家事や外出，趣味等の家庭生活と余暇生活の項目に落ち込みがみられることが分かった（**図１**）．

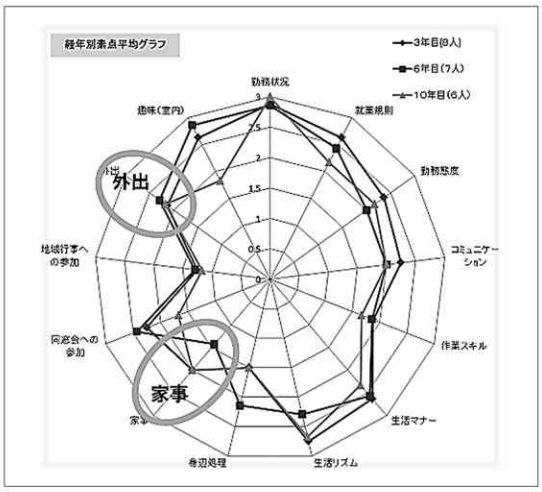


図１　フォローアップミーティングアンケート集計結果

本校高等部では，家庭科の学習は学年ごとに実施している．被服の学習に関しては，洗濯やアイロンがけなどの衣服の管理について，実際にやってみることで自己の課題に気付いたり，友達の考えを知ることでより良い方法を理解したりと，実践的な学習を積み重ねてきた．

本実践のテーマである「着装」に関する実態として，家庭における衣服の選択に関しては，自分一人で選択する生徒，自分で選択したものを保護者に確認する生徒，保護者が選択する生徒など，実態は様々である．休日などに私服で家族と外出することはあるが，自分の似合う色や柄などについて考えて衣服を選択したり，購入したりする経験は少ない．また，衣服を選択する際に，自身の身体と服のサイズを考慮したり，年齢や性別，ＴＰＯを意識したりすることが難しい，という課題や教育的ニーズがある．

そこで，先行研究（雙田・鳴海　2006，雙田・岩濱　2010）を参考に，シミュレーションソフトを用いて，自分に似合う色やデザインについての知識を深めながら，自らの服装について振り返り，ＴＰＯに応じた衣服選択の大切さを学ぶことを目的として実践に取り組んだ．

(2)　次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ

①成果と課題

家庭科，技術・家庭科では，普段の生活や社会に出て役立つ，将来生きていく上で重要であるなど，児童生徒の学習への関心や有用感が高いなどの成果が見られる．

一方，社会構造の変化や家庭や地域の教育力の低下等に伴い，家族の一員として協力することへの関心が低いこと，家族や地域の人々と関わること，家庭での実践や社会に参画することが十分ではないことなどに課題が見られる．

②見方・考え方

家庭科，技術・家庭科における「見方・考え方」については「家族や家庭，衣食住，消費や環境などに係る生活事象を，協力・協働，健康・快適・安全，生活文化の継承・創造，持続可能な社会の構築等の視点で捉え，よりよい生活を営むために工夫すること」を「生活の営みに係る見方・考え方」として整理されている．

③育成を目指す資質・能力の整理

育成を目指す資質・能力については，「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせつつ，生活の様々な問題の中から課題を設定し，その解決を目指して

＊ 熊本大学教育学部附属特別支援学校
＊＊ 元熊本大学教育学部家政教育学科

解決方法を検討し，計画を立てて実践するとともに，その結果を評価・改善するという活動の中で育成できると考えられる．

2．実践方法

(1) 題材の目標

生徒の実態を受け，本実践の目標を以下の通り設定する．

①ＴＰＯに応じた服装や，自分の好きな色や似合う色があることを知ることができる．　【知・技】

②自分に似合う色を意識しながら，テーマに沿った服装を，自分で判断し選択することができる．【思・判・表等】

③友達のアドバイスを参考にしたり，以前の自分と比較したりしながら自分に似合う色を選ぼうとすることができる．　【主・短期】

④本題材で学んだ知識や自分に似合う色などを，学校生活や家庭生活で活かすことができる．【主・長期】

主体的に学習に向かう態度の目標について，短期目標と長期目標の２点を挙げている．家庭科という教科の特質上，学習内容を生徒自身が学校生活や家庭生活で活かす，般化することが重要と捉え，長期的な観点で目標設定をしている．

(2) 指導計画

2017年10～11月に第１次～第４次（計４時間）の学習を実践した．**表１**に本実践における指導計画表を示す．

表１　指導計画表

次	題材名	学習内容	時間
1	ＴＰＯに応じた服装について学ぼう！	・ＴＰＯに関する○×クイズ ・着装のポイントを知る	1
2	私服写真を発表しよう！	・選んだ理由やポイントを説明しながら発表する ・他の生徒は感想や意見（提案など）を発表する	1
3	自分の好きな色と似合う色を調べよう！	・シミュレーションソフト*の使い方を知る ・シミュレーションソフトを用いて，自分の好きな色と似合う色を調べる	1
4	自分らしいコーディネートをしよう！	・シミュレーションソフトを用いて，自分らしさを取り入れながら，テーマに沿ったコーディネートを考える	1

*　色彩プランナー　(㈱ゴーシン，2002)

(3) 授業対象者

本実践における対象生徒は，高等部第２学年の男子６名，女子３名の計９名の生徒である．生徒は後掲**表６**のようにＡ～Ｉの記号で表記する．

3．実践内容と結果

(1) 第１次「ＴＰＯに応じた服装について学ぼう！」

①学習の流れ

第１次の学習の流れを**表２**に示す．

表２　第１次の学習の流れ

①はじめのあいさつ
②学習内容の確認
③ＴＰＯに応じた服装に関する○×クイズ
④着装のポイントについて知る
⑤次回の学習内容の確認
⑥ワークシート記入（振り返り，評価）
⑦終わりのあいさつ

学習内容の確認後，ＴＰＯに応じた服装に関する○×クイズ（**図２**）を実施した．

図２　ＴＰＯに関する○×クイズの学習プリント

場面については生徒がよりイメージしやすいように「通学時の靴下」「スポーツをするとき」などの身近な場面から，「夏休みに友達と遊ぶ」という具体的な場面，「結婚式」「葬式」などの冠婚葬祭の場面の５つを設定した．

結婚式および葬式については，それらの式に参列した経験がなく，場面をイメージすることが難しい生徒への配慮から，クイズを回答する前に，どのよ

うな式なのかイラストを用いて説明を加えた．

まず生徒たちは各自で○か×かを考え，その後クラス全体で○×の正解を確認した．「どうして○（もしくは×）と考えたのか」という理由も併せて発表することで，言語活動の充実を図り，友達の考えを聴くことで「自分の考えと同じだった」という共感や，「そんな考え方があるんだ」という気付きや新たな考えを獲得することもねらいである．

○×クイズを通して，ＴＰＯを意識した衣服選択の大切さを知った後，**表３**に示す着装のポイントについて学習した．

②学習後の生徒の様子

学習時に生徒が記入したワークシートには，以下のような記述があった．

生徒Ａ「ＴＰＯが分かりました」
生徒Ｅ「自分の体感で服を選んでいきたいです」
生徒Ｈ「場所や場面に応じて，自分の似合う色を合わせるといいと思いました」

図３は「ＴＰＯに応じた服装について分かったか」という項目に対する回答である．９名中８名が「よく分かった」，残りの１名も「分かった」と自己評価をしている．これらのことから，生徒たちは学習を通して「ＴＰＯ」という言葉や意味について知ることができ，ＴＰＯに応じて服を選ぶことの大切さに気付いたことが確認できた．

表３　着装のポイント

着装のポイント
①衣服のはたらき
○保健衛生上のはたらき
・寒暖の調整
・怪我の防止
・身体から出る汗や汚れをすいとる
○生活活動上のはたらき
・活動に合った衣服を着ることで，運動や作業などの活動がしやすい
②ＴＰＯに合わせた服装
○時間・場所・場面に応じた服装の使い分け
(Time 時間・Place 場所・Occasion 場面)
③衣服を選ぶときのポイント
○季節の違い
(暑いとき，寒いとき，涼しいときなど)
○活動の違い
(運動，美化作業，調理，就寝など)

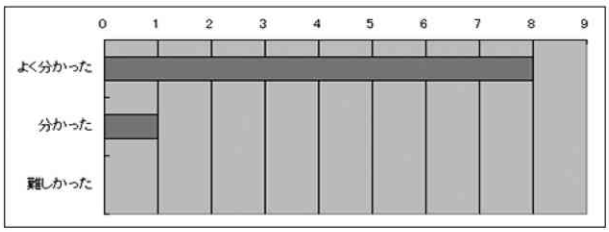


図３　ＴＰＯに応じた服装について（授業後評価）

⑵　第２次「私服写真を発表しよう！」

①学習の流れ

第２次の学習の流れを**表４**に示す．

表４　第２次の学習の流れ

①はじめのあいさつ
②学習内容の確認
③私服写真発表
④服装を選ぶポイントについて知る

第２次は続く第３次と同日に実施した．家庭科という教科の特質として，２時間の枠で時間割を設定することがあり，第２次と第３次は２時間の枠を学習内容上から２時間に分けて計画，実施した．そのため，第２次ではワークシート記入などの「振り返り」や「終わりのあいさつ」などは設定していない．また，同じ理由から第３次については，授業②の導入で実施した「はじめのあいさつ」や「学習内容の確認」は設定していない．

私服写真については，第１次の「次回の学習内容の確認」において，生徒と以下の３点を確認した．

・週末，各自所有のタブレット端末で私服写真を撮る
・テーマ「冬休み友達と出かける」
・できるだけ自分（生徒自身）で服を選ぶ

この内容について，保護者には題材計画時に事前に周知を図り，了承と協力を得てから学習をスタートしている．特に３点目の「できるだけ自分で選ぶ」に関しては，「学習の一環であり，『私服が変だ』『似合っていない』などの否定的な学習ではなく，『どのようにすると，よりよい服装，自立した衣生活につながるのか』ということを学習していくために，生徒自身が選ぶように見守っていただきたい」という点について，説明と依頼を行っている．

各自のタブレットで撮ってきた私服写真をカラー印刷し，９名全員分を黒板に提示した．発表者は「どこがポイントなのか」「どんなことを考えて選んだのか」など「選んだ理由」を各自の言葉で説明しながら発表した．このポイントについては，全員に事前に聞き取りを行い，印刷した私服写真の下に記載した．また，発表を聞く側は，発表を聞いた後，感想や意見，提案などを発表者に伝えることにした．意見や提案は「似合っていない」などの否定的な表現ではなく，「こんな色だともっと似合うのでは」などの肯定的な表現を心掛けるよう伝えた．

②学習後の生徒の様子

友達の私服写真について，生徒が述べた感想や提案などは以下のとおりである．

生徒Ｂ「赤が似合っている」
生徒Ｆ「上と下の組み合わせがいい」
生徒Ｃ「白と青のボーダーが似合っている」
生徒Ｇ「チェック柄も似合っているけど，違う柄も似合うと思う」
生徒Ｅ「女性らしい色合いだなと思う」

私服に関する学習が初めてだった生徒の中には，どのように感想や提案を言えばよいか悩んでいる様子の生徒もいた．他の生徒が発表する姿を見て，どのように伝えるとよいかが分かり，次第に自分から発言する生徒も増え，学習途中からは活発な意見交換が行われた．発表の仕方を事前に確認していたこともあり，生徒たちの発言は肯定的な表現が多く，友達から評価をもらうことで，恥ずかしそうにしながらも「嬉しいです」と，笑顔で感想を述べる生徒もいた．自分の服は「他者に見られている」ということに気付き，友達から評価をもらうことで，自分で服を選ぶ意欲も高まった．

⑶　第３次「自分の好きな色と似合う色を調べよう！」

①学習の流れ

第３次の学習の流れを**表５**に示す．

表５　第３次の学習の流れ

①シミュレーションソフトの使い方を知る
②好きな色，似合う色，スタイルを調べる
③結果を全員で確認する
④ワークシート記入（振り返り，評価）
⑤次回の学習内容の確認
⑥おわりのあいさつ

パソコンは１人１台使用し，１グループ３人で行う．グループ学習をすることで，　教師が丁寧に支援できるだけでなく，生徒同士で設問の答えを考えたり話し合ったりすることができ，より思考を深めることをねらっている．シミュレーションソフト（色彩プランナー，以下ソフトと表記する）は，アンケート形式の質問に答えることで，好きな色や似合う色などが視覚的に分かるという特徴がある．まずはソフトの使い方を知るために，初期設定を全員で同時に行った．初期設定を完了した生徒から，各自で「好きな色，似合う色，スタイル」の３項目をソフトを用いて調べ，その結果をワークシートに記入した．

②学習後の生徒の様子

表６はソフトで調べた，生徒の好きな色と似合う色の結果を表したものである．

結果を生徒全員で確認すると，「好きな色と似合う色の組み合わせが同じ人たちがいる」「似合う色では，好きな色で多かった『あざやか』がなくなった」「好きな色と似合う色がみんな違う」などの気付きが生徒から出た．

表６　好きな色と似合う色の結果

生徒名	好きな色	似合う色
A（男）	○かろやか	▽やわらか
B（男）	▽やわらか	□おちつき
C（女）	□おちつき	▽やわらか
D（男）	●あざやか	○かろやか
E（男）	●あざやか	□おちつき
F（女）	●あざやか	▽やわらか
G（男）	●あざやか	▽やわらか
H（女）	●あざやか	○かろやか
I（男）	▽やわらか	□おちつき

授業②と③は同日に実施したため，振り返りのワークシートはまとめて１枚となり，内容も２つの学習を含んだものもある．学習時に生徒が記入したワークシートには，以下のような記述があった．

生徒Ｃ「好きな色や似合う色がわかりました」
生徒Ｉ「自分が着る服の色と調べた似合う色が合っていることに驚きました」
生徒Ｈ「似合う色を考えながら，場所などに合わせた
生徒Ｃ「服装をしてみたいです」

図４の授業後評価と比較して**図３**では「よく分かった」の人数が減り，「分かった」の人数が増えている．その要因としては「かろやか」「やわらか」などの言葉で表現してあり，ソフトを用いて調べているときはパソコン画面上に該当の色が出ているが，ソフトを終了してしまうと色も消えてしまうので，生徒が学習を振り返るときには，具体的に「○○色」という認識ができずにいたためと考えられる．しかし，「自分には好きな色と似合う色がある」ということについては，９名全員が知ることができた．

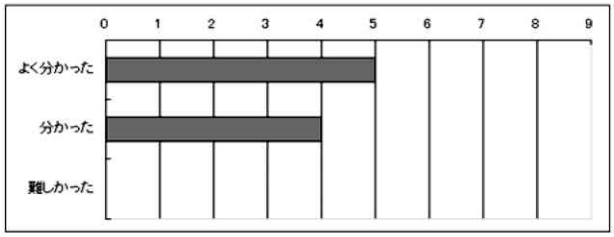


図４　自分の好きな色や似合う色について（授業後評価）

⑷　第４次「自分らしいコーディネートをしよう！」

①学習の流れ

第４次の学習の流れを**表７**に示す．

表７　第４次の学習の流れ

①はじめのあいさつ
②学習内容の確認
③前回の復習
　・服装を選ぶときのポイント
　・好きな色や似合う色などの確認
④自分でコーディネートを考える
　・シミュレーションソフトを用いて
　・テーマ「冬休み友だちと出かける」
⑤自分が作った作品を発表する
⑥学習のまとめ
⑦ワークシート記入（振り返り，評価）
⑧終わりのあいさつ

第３次と同様，パソコンを１人１台使用し，１グループ３人で行った．私服写真を撮影した際のテーマと同じにすることで，以前の自分と比較しながらコーディネートを考えることができるようにした．今回もソフトを用いることで，トップスやボトムスなどのデザインを簡単に組み合わせたり，「似合う色パレット」から好きな色を選び，自分でコーディネートした服に自由に配色したりできた．パソコン操作に戸惑う生徒もいたが，生徒の考えを取り入れながら教師と一緒に操作したり，生徒同士で協力したりしながら，楽しい雰囲気の中で各自コーディネートを考えた．

その後，私服写真と同様「選んだ理由」や「コーディネートのポイント」などを説明しながら自分の作品を発表した．今回は友達からの他者評価ではなく，生徒が意識したポイントや工夫点などを，教師が認めほめながらクラス全体に再度伝えることで，生徒が自身の考えを深めたり，互いの良さを認め合ったりできるようにした．

②学習後の生徒の様子

学習時に生徒が記入したワークシートには，以下のような記述があった．

生徒Ｄ「パソコンで好きな色を選んで決めました」
生徒Ｅ「色や柄だけでなく，気温や季節に合わせた服を選んでいきたいです」
生徒Ｈ「自分に似合う色に合わせて，見た目が良い服にしていきたいです」

図５に示すように，色に着目した学習を進めてきたことで，生徒自身が「色」を意識しながらコーディネートを考えていることが明らかになった．また，服装を選ぶときのポイントの１つとして「自分の好きな色を選ぶ」ことを確認していたこともあり，色をより意識したり，「この色にしようかな」などと自分で色を選んだりしながらコーディネートを考えることができた．また，生徒の私服写真をワークシートにそれぞれ提示したことで，以前の自分との違いを意識しながらコーディネートを考える生徒もいた．生徒の振り返りからも「自分で服を選びたい」という気持ちの高まりもみられた．

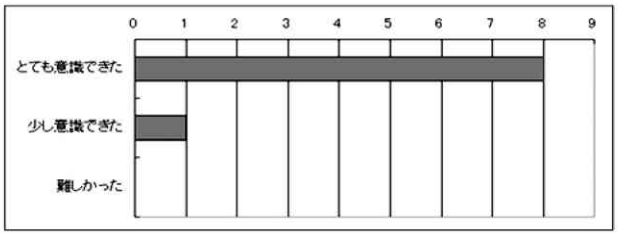


図５　自分に似合う色を意識したか（授業後評価）

⑸　対象生徒の事例

さらに，学習の効果がみられた１事例を紹介する．

①対象生徒の実態

対象生徒は高等部第２学年の男子生徒Ｇである．とても明るく優しい性格で，学習中も積極的に発言し，クラスのムードメーカー的な存在である．友達に対する思いやりの気持ちも強く，友達のよさや頑張りに気付くことができる生徒である．将来はグループホームなどで，親元を離れて自立した生活を送りたいと考えている．

衣服選択に関しては，自分で選ぼうとする気持ちはあるが，母親が選んだ衣服を着用している．生徒Ｇに話を聞くと「自分で選ぼうとするけど，母親が『それはダメ』と言って選ばせてくれない」という悩みを抱えていた．生徒Ｇの母親に尋ねたところ「色の組み合わせが合っていなかったり，ＴＰＯに合っていない衣服を選択したりしているので」ということであった．このことより，生徒Ｇの課題および教育的ニーズを**表８**にまとめる．

表８　生徒Ｇの課題および教育的ニーズ

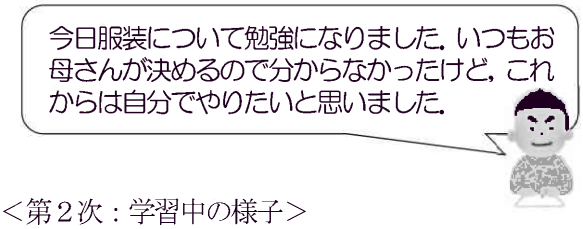
生徒Ｇの課題および教育的ニーズ

・ＴＰＯに関する知識が少ない
　→ＴＰＯについて知り，理解を深める
・自分に似合う色やＴＰＯを意識した衣服選択の経験が少ない
　→自分に似合う色を知り，テーマに沿った服装を自分で考える
・「自分で選んだことがない」「自分でできない」などのマイナスイメージが強い
　→友達から「いいね」「似合っているね」「こうするともっといいかも」などの他者評価をもらい，プラスのイメージにかえる

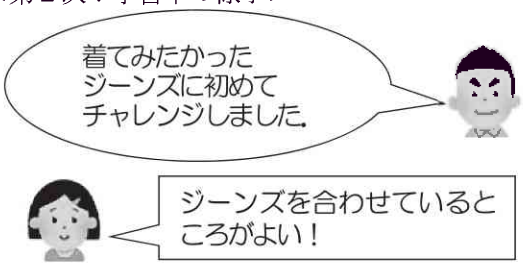
②学習後の生徒の様子

生徒Ｇの学習後の振り返りや，学習中の発言を**図６**に示す．

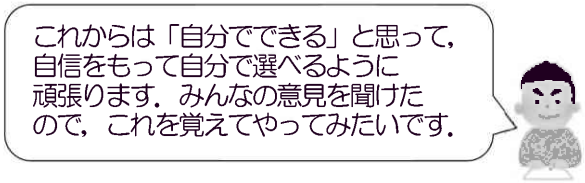
＜第１次：学習後の振り返り＞



＜第２次：学習中の様子＞



＜第３次：学習後の振り返り＞



＜第４次：学習中の様子および学習後の振り返り＞

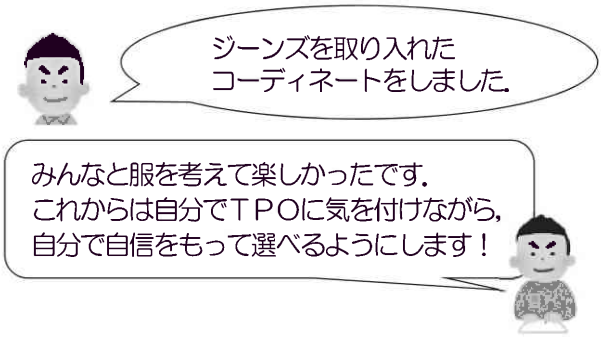


図６　発言にみられる生徒Ｇの変化

③般化の場面

学習したことを実際の生活の場面で活かすことができたか確認するために，冬休みに私服写真を撮る機会を設定した．生徒Ｇの様子について以下に示す．

【冬休みに私服を購入した】

今までは服を購入する際にも母親が選んでいたが，自分で「これがいい」と選んだ服を購入した．服を選ぶ際にも，色のことを考えながら選んだ．

【冬休みに友達と私服で出かけた】

この時もジーンズを着用した．ジーンズを選んだ理由を生徒Ｇに尋ねると，「勉強したときに，友達から『いいね』とか『似合ってるね』と言われて，自信をもって『着てみよう』と思ったからです」と答えた．服の選択に関しては，全て自分で決めた服を母親に見せた．第２次では上着は白にしていたが，色のことを考え，上着は「青」を取り入れたコーディネート（**図７**）にした．

図７　私服の変化（左：学習前，右：学習後）

４．考　察

(1)　成果

①自分で服を選ぼうとする意識の高まり

ソフトを用いて楽しみながらコーディネートを考えたことで，「自分で服を選ぶ楽しさ」を実感し，友達からの「いいね」「似合ってるね」などの評価をもらうことで，「自分で服を選んでみようかな」「あの服にチャレンジしてみたいな」という意欲の向上がみられた．

②服を選ぶときのポイントの理解

今までは「自分が気に入っている」ということがポイントになっていた．学習を通して色やサイズ，柄，ＴＰＯ，見た目の良さなど，服を選ぶときには考えるポイントがいくつもあり，さらに相手（他者）からの印象はどうなのか，という視点も加わることで，周囲の人との距離の取り方や，社会との距離の取り方を学ぶ（鷲田　2000）と考えられる．この学習を通して「他者の目を意識する」という気持ちの芽生えがみられた．

③授業づくりへの提案

今回の実践を通して得られた結果に基づき，着装に関する基本的な知識や技能を身につけるための授業づくりのポイントを考案し，以下にまとめる．

A．見通しがもてる授業展開

課題の提示→　自分で考える→　みんなで考える→振り返る→　授業の流れを固定化し見通しがもてるようにする．

１つの題材において，身につける技能（課題）を明確にすることで，また生徒自身がそれを自分の課題だと捉えるようにすることで，自分の力で解決しようとする姿を見ることができる．うまくできないことや，やり方がわからないときは，友達のやり方をまねてみたり，取り入れたりしてもいいということや，逆に友達にアドバイスをしたりやり方を教えたりすることで，自分の課題解決につながることを理解し，主体的に課題に取り組む．

B．客観性の重視

タブレットを用いて日常を切り取る（写真機能の活用）→自分の姿を客観的に見ることができる． シミュレーションソフトの活用→自分の考えをその場ですぐに反映することができる．

服装を選択する際の色のバランスやデザイン（サイズ感，組み合わせ）を工夫するという課題において，タブレットで撮影した画像を見比べていく中で，生徒自身が「何がいいところで何を改善していくのか」を客観的に捉える．そのために，これからも取り入れていいところ，改善していくところを友達の意見を参考にしながら考える．

また，シミュレーションソフトなどを使うことで，自分の考えた色やデザインを使ったスタイルを作成し，楽しみながら服装を考えることができる．

C．認め・ほめる場面の設定

対話的な場面（話し合いの場面）を設定する→周りから認められる→関心・意欲につながる

タブレットで撮影した画像やソフトで作った作品を発表する中で，互いに感想を話し合うことは，自分の着装に対する他者からの評価を聞く機会となり，多くの刺激を受けることが期待できる．ただし，その前提として「その色は似合っている」「色の組み合わせがいい」というような，互いに個性を認め尊重しあう指導は欠かせない．他者から「似合う」とほめられた経験は，個人の色の選択に影響をおよぼすという報告もある（雙田・村上　2008）．私服のセンスを認められ，ほめられることは，衣服の色やデザインを選択することへの自信につながる．自分らしくかつ「見せたい自分」を意識した服装観を育てる．

D．楽しい！またやりたい！場面

楽しく自ら試行錯誤できる活動場面を設定する→キーワードとしてまとめる．

家庭科の授業時数は少ないため，授業だけでスキルが身につくものでもない．そのためにはやはり日々の積み重ねや経験量の多さが必要となってくる．そのために，「授業で楽しかった！」「やり方がよく分かった！」「こうしたらできる！」というような気付きを見つけられることが必要である．キーワードをまとめたり，生徒の活動場面が増えたりするような教材，たとえば長期休暇中の服装チェックや買い物記録などを取り入れることで，次につながる様子がみられる．

(2)　課題

①学習内容の定着・般化

現場実習や生活単元学習などの他学習・他場面との関連をどのように図っていくのか．また，今年度から学年別に年間指導計画を作成したが，高１から高２へ，高２から高３へ，そして社会人へと進んでいく生徒たちの，卒業後の社会生活を意識した学習内容をどのように発展させていくのか．学習内容の定着と，家庭生活への般化，そして卒業後の生活へとつなげることを意識した授業実践が必要である．

②家庭との連携のあり方

上記の課題とも密接に関係しているもので，学んだことが学校だけで終結していないか．卒業後の生活基盤を考えた実践の積み重ねができているのか．これらのことを今後も考えながら授業実践を計画，実行していくことが求められる．『家庭科の記録（案）』を作成し，家庭での実践の手がかり，きっかけになるような具体物を作成し，家庭とも今まで以上に連携を深めながら実践を積み重ねていきたい．

５．まとめ

(1)　特別支援学校に求められる家庭科教育

平成10年の中学校学習指導要領家庭の改定以降，着装の学習は改定を重ねるたびに重視度を増してきた．今回の授業実践で取り上げたＴＰＯに応じた衣服の着用，他者に与える印象，色や形の調和，自分に似合う色や着方の学習は，中学校で学ぶ基礎的内容の一部である．衣服の購入に関わる生徒が増える高等学校の家庭科では，これらをさらに発展させて，自分の衣生活を主体的に営むことができる力の育成を目指す．

本来，着装に関する授業は，生徒たちが話し合いを通して主体的に衣生活を考え，実践力を身に付けていくことを目指すものであって，知識として教え込むものではない．しかし，生徒たちの衣服に対する関心は個人差が大きいため，授業の進め方は難しく，家庭科教員の中でも自信の持てない人が多い単元でもある．

特別支援学校での授業の場合，さらに難しい問題として，生徒のおしゃれや衣服に対する関心が同年代の子どもに比べて低く，日常的に友達間で衣服を話題にすることが少ないという特徴が挙げられる．これは友達と自由に外出できない状態にあることが原因と考えられるが，日常生活で家族に頼る部分が多いため，家族の好みが衣服の選択に影響しやすく，主体性が育ちにくいことも原因の一つと考えられる．

それだけに，家庭科の授業で着装について学ぶことは，大きな意味をもつ．服装を通して自分らしさを理解し，他者からの意見を聞きながら自分のスタイルを考えていくことは，将来の衣生活を豊かにする重要な経験となる．高校生がこれから始まる社会生活に自信を持って臨めるように，家庭科教育からの支援が必要である．

⑵　卒業後の豊かな生活を営むために

「楽しい」と感じ，服への意識や興味関心が高まることは，「主体的な衣生活」への第一歩と言えるのではないか．また，今回実践した「着装」に関する学習だけではなく，洗濯やアイロンがけ，修繕などの「被服」に関する学習を，実践的に学びながら，総合して「より良く，より豊かな生活を営むために，主体的に考え，工夫する」ことができるような実践を積み重ねていきたい．

参考文献

雙田珠己，鳴海多恵子（2005）肢体不自由養護学校における衣生活教育：授業計画の作成と実践による学習効果の検討，特殊教育学研究，43，215-224.

雙田珠己，村上精一（2008）大学生における衣服の色彩嗜好と選択理由の関連性，日本繊維製品消費科学会，49：881-888.

雙田珠己，岩濱友紀（2010）特別支援学校（肢体不自由）における家庭科教育の取組：主体性を育成する衣生活の授業計画と実践，熊本大学教育実践研究，27：33-42

鷲田清一（2000）ひとはなぜ服を着るのか，日本放送協会，東京,139-152